

接続可能な社会づくりの人材育成を目指して！ ～森林環境教育教員研修の事例を報告～

令和2年2月16日、「森林環境教育・森林ESD」「緑の少年団」推進全国セミナーin大阪が、近畿中国森林管理局大会議室で開催され、教育関係者など87名が参加し、活発な意見交換が行われました。

セミナーでは、基調講演として京都教育大学の山下宏文教授から「新学習指導要領における森林ESDの意義・可能性」の講演がありました。

概要報告では、(公社)国土緑化推進機構の木俣政策企画部課長から、「新学習指導要領に対応した「森林ESD」の提案～新教科書における森林・林業等の記載内容等の紹介～」の報告がありました。

その後、箕面森林ふれあい推進センターを含む4つの事例報告がありました。

さかのうえ
坂上副センター長(みえ森づくりサポートセンター)から、「幅広い学校への出前授業・指導者養成・活動支援の仕組み」、高瀬企画指導専門職(国立曽爾青少年自然の家)から、「青少年教育施設における教科等と連動した森林ESDの受入体制整備」、永富教授(大阪教育大学)と牧野事務長((公財)大阪みどりのトラスト協会)から、「免許更新研修と連動した教員向け研修計画事例」と題して事例報告がありました。

最後に、当センターの倉石自然再生指導官から、「森林環境教育教員研修について」と題して、平成16年度から全国に先駆けて実施している教員研修の事例報告を行いました。

質疑応答・ディスカッションの時間で当センターに寄せられた意見には、「実施した森林環境教育教員受講後の教員への追跡調査の必要性」、「国の機関自ら研修を行うのではなく、森林インストラクター会などの団体へのコーディネートに専念しては」などの意見がありました。

当センターでは、引き続き関係者と連携を行いながら森林環境教育に取り組んでまいります。



倉石自然再生指導官からの事例報告



質疑応答の様子



第2回「箕面体験学習の森」育成・活用事業（Ⅱ）検討委員会を開催



当センターでは、平成20年5月に策定した「箕面体験学習の森」整備方針に基づき、「オオクワガタの棲める森づくり」をコンセプトに、里山再生に取り組んでいるところです。

「箕面体験学習の森」の保全、育生・活用について幅広く検討するために、地域住民、森林ボランティア、研究者、関係行政機関等のメンバーで構成されている検討委員会を設置しており、2月13日（木）第2回「箕面体験学習の森」育成・活用事業（Ⅱ）検討委員会を近畿中国森林管理局において開催し、令和元年度の事業報告を行いました。

検討委員会では「今後の里山整備の方向性について検討が必要」、「育生・活用事業の、育生の部分はかなり充実してきているが活用の部分がまだまだ弱い」、「植生調査については同じ場所で10年以上続けており大変貴重な資料なので、一般に公開しないのもったいない」、「昆虫ベッドについては、初めてカブトムシの育生に成功して良かった」といった意見をいただきました。このような意見も踏まえ、令和2年度第1回検討委員会については、「箕面体験学習の森」のフィールドである箕面のエキスポの森で開催し、現地を見ていただきながら今後の里山整備の方向性や具体的な整備方法等について検討することとしています。



ニホンジカ被害対策情報交換会を開催 ～箕面国有林におけるニホンジカ被害対策の取組～



近年、全国的にニホンジカによる農林業や森林生態系への被害が問題となっており、箕面森林ふれあい推進センターの活動フィールドであり、国定公園や自然休養林に指定されている、大阪府箕面市の箕面国有林においても被害が継続しています。

ニホンジカの被害防止対策を効率的、効果的に実施するためには、関係団体と情報を共有することが重要であり、2月20日（木）、箕面市役所会議室において、本年度の捕獲事業を実施した大阪府猟友会、当センターなど行政機関や市民団体などで構成する明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の各団体及びモニタリング調査の受託者等関係者25名が出席して、情報交換会を開催しました。

情報交換会では、各団体の取組やモニタリング調査の概要について報告があり、「シカが主に利用している斜度と生息密度とを合わせたマップを作成し、捕獲圧をかけることができれば土砂災害防止につながるのではないか」などの意見が出され、有意義な情報交換会となりました。

今後も、箕面地域で活動している関係団体と連携しながらニホンジカ被害対策を実施し、農林業被害の低減と森林生態系保全の取組を推進していきたいと考えています。

